

平成23年度鹿児島市学校教育研究大会に係る研究実践経過中間報告

鹿児島市立谷山北中学校

1 研究主題をもとにした具体的な取り組みについて

(1) 基本的な考え方

- ア 本校の教育目標を具現化するために、経営方針、努力点、生徒の実態などを踏まえ、教職員の実践力の向上に結びつく研究を目指す。
- イ 年間研修計画を立案し、研修が深化され、その成果が全体に生かされるよう全職員の共通理解のもとに研修が推進できるように努める。
- ウ 研究授業を通じた研修は、教科部会を中心に指導案検討を行い、事前の教材研究が充実したものになるようにする。また、その授業には教科・学年にかかわらず多くの職員が参加し、互いの資質の向上に努める。
- エ 外部講師招聘の際には、研修内容に応じて、各主任及び研修係が事前に打ち合わせを行い、遺漏のないようにする。

(2) 研究主題

「確かな学力を育む教育活動はどうあればよいか」
～コミュニケーション活動や助け合い活動を通して、生徒の主体性の育成を目指す～

(3) 研究主題設定の理由

近年、小中学生による非行や犯罪も増え、犯罪の低年齢化が社会問題となってきている。また、若者のフリーターやニート、高校の中退なども増えてきている。教育現場では、不登校、学力低下、学級崩壊などの問題を抱えている。これらの問題の背景には、周囲とのコミュニケーションがうまくとれず、豊かな人間関係が築けなかったり、目標を持つことや意欲に乏しかったりすることなどが原因であると考えられる。

現代の教育では、生徒の「生きる力」の育成が大きな目標の一つとして掲げられている。この「生きる力」には「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」などさまざまな要素がある。本校では、教育目標に「生きる力」の要素の1つである「豊かな人間性」の育成が掲げられており、3年間研修に取り組んできた。この3年間の研修の成果や課題、生徒の実態などをもとに、今年度は、「生きる力」を育成するための基本とも言える「確かな学力」の育成に着目した。

本校の生徒の実態を見ると、ほとんどの生徒が学習や学校行事、係活動などに真面目に取り組んでいる。しかし、学年が上がるにつれて受け身の姿勢が強まり、発表したり積極的に活動したりする生徒も固定化し、集団への所属意識が低下するよう感じる。また、本校は1小1中という環境から、自分の意見や考えを持っているにも関わらず、少人数で授業や活動をする時などは積極的に自分の意見を発表したり質問したりすることができるのだが、学級や学年全体となると、周囲を気にし、人と違う意見を発言することができず、他人の意見に追従してしまう傾向がある。さらに、学習や係活動などでも出された課題や人から言われたことはやり遂げるのだが、自ら主体的に考え、行動できない生徒も多い。

以上のことから、生徒の主体性を育成するためには、全教育活動を通して生徒が自ら考え、判断し、学び、行動できる力を身につけさせることが必要である。特に授業を通して、「自己表現能力」「他人と意見が異なった場合の思考・判断力」「意欲的に学習に取り組む態度」を育成することで、自己肯定感や集団への所属意識が高まると考える。また、このような力は学習面だけでなく、学校行事や係活動、基礎・基本の定着、さらには自分の将来の生き方にもつながると考え、上記のテーマを設定した。

(4) 研究の仮説

全教育活動を通して、生徒が自ら考え、判断し、行動する力を育てることで自己肯定感や集団への所属感も高まり、何事にも意欲を持ち、主体的に行動できると考える。

そのためにも、教科・領域・学校行事などにおいて、指導・支援のあり方を明確にし、工夫や改善していくことで、集団の一員としての自覚をもち、目標をめざし、主体的（意欲的）に考え行動できる生徒の育成につながると考える。

2 研修の内容について

(1) テーマに関して

ア 一人一役を徹底させるための専門部活動の内容検討，生徒会活動や行事などにおけるリーダーの育成や指導の在り方

イ コミュニケーション活動を通し，生徒同士が互いの良さを認め合い，思いやりの心を育てる道徳教育の在り方

ウ 主体性な活動を通して，自己肯定感や集団への所属意識を持たせる特別活動や学級経営のあり方

・学級目標の設定や係活動などのあり方、朝の会や帰りの会等の内容や進め方などの検討

エ 生徒が意欲を持ち、主体的に考え学ぶことのできる各教科における授業の在り方

オ グループ活動を通した、コミュニケーション能力を高めあえる具体的手法

カ 各教科，領域における共通理解・共通実践

(2) 一般的な研修

ア 事例研究を通した生徒理解と個々の生徒にあった適切な指導方法の研修

イ 人権意識の向上に向けた研修

ウ 情報活用能力の向上に向けた研修

エ 特別支援教育に関する研修

オ 進路指導，キャリア教育に関する研修

カ その他（教育課程，学力向上，保健関係等）

(3) 全体研修，教科等研修の流れ

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 全体研修の内容 | 企画・運営 | 教科等研修 |
|---|---|----|---|---|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 5 | 2 | 月 | H22年度の研修計画について テーマ研修①：領域の取り組みについて検討 | 研修係 各領域主任 | 年間研究計画の 立案 |
| 2 | 5 | 23 | 月 | 生徒理解・生徒指導事例研究 特別支援教育 校内体制について | 生活指導係 特別支援教育係 養護教諭 | 標準学力検査結果分析 定期テストの問題作成 |
| 3 | 6 | 21 | 火 | 小中連携部会（中山小にて） | 研修係 | 実力テストの問題作成 |
| 4 | 7 | 3 | | テーマ研修②：実証授業（特別活動） 3年学活 授業者 加藤恵子 瀬戸口浩司 | 研修係 教科主任 | 観点別評価の検討 |
| 5 | — | — | — | 情報活用能力 | 情報教育係 | 評定の検討 |
| 6 | 8 | 1 | 金 | テーマ研修③：テーマ研修に関する 講話 | 研修係 | 指導法の検討 |
| 7 | 8 | 19 | 月 | 保健関係、性教育など | 養護教諭 | |

| | | | | | |
|----|----|----|---|------------------------------------|--------------|
| 8 | 10 | 24 | 月 | テーマ研修④:実証授業(特別活動) 3年学活 授業者 石塚直貴 | 研修係 領域主任 |
| 9 | 12 | 16 | 金 | 教育課程 進路指導・キャリア教育 | 教務 進路指導主任 |
| 10 | 2 | 6 | 月 | 人権教育 | 人権教育係 |
| 11 | 2 | 27 | 月 | テーマ研修⑤:1年間のまとめ 次年度の計画 | 研修係 |

※ 6月・・鹿児島市小中連携研修会

※ 11月・・研究の中間報告 (WEB サイト上)

※ 2月・・鹿児島市学校教育研究大会

※ 3月・・研究の最終報告 (WEB サイト上)

3 研究の実際

(1) 5月2日「H23年度の研修計画について」

ア 研究テーマについて共通理解を図り、年間の研修計画の内容の確認

イ 研修テーマにおける道徳、特別活動、生徒会での具体的な取り組みについてまとめた(内容)。

ウ 生徒会活動計画の見直し

(2) 6月21日「中山小・谷山北中連携研修会」

ア 生徒指導をテーマとした意見交換会の実施

イ 各教科に分かれ学力向上に向けての情報交換会の実施

ウ 研修会冊子の作成(夏季休業中に配布)

(3) 7月3日「実証授業」(学活)

ア 授業参観

イ 授業研究

(4) 8月1日「青少年をとりまくネット社会について」

講師:戸高 成人 氏

(5) 10月31日「実証授業」(道徳)

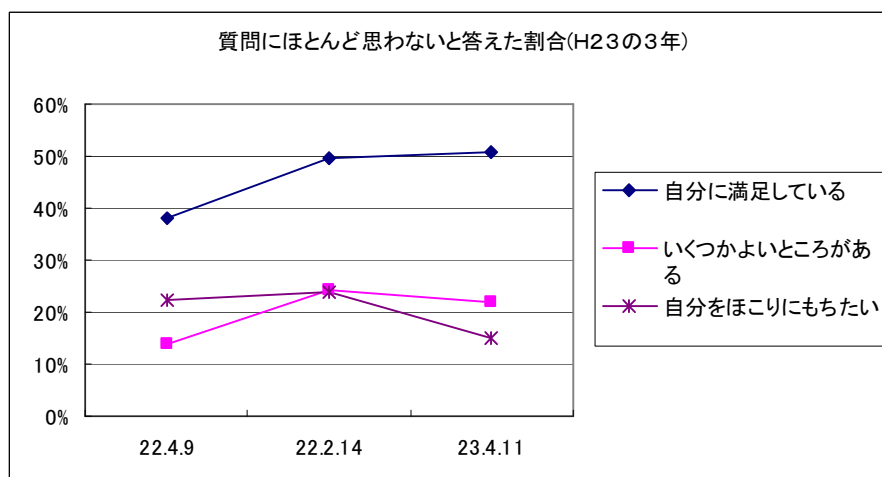
ア 授業参観

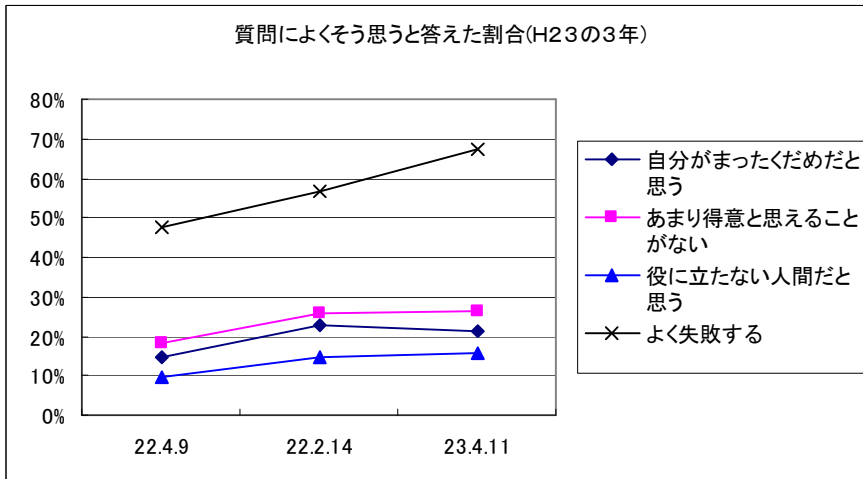
イ 授業研究

4 テーマに向けた具体的取り組みと今後の課題

(1) 生徒の自己肯定感の実態を知るアンケート調査の実施(平成23年4月11日実施)

生徒自身の自己肯定感に関するアンケートを実施した。1・3年で実施した。アンケートの実際については資料1に示す。3年生については、昨年の4月からこのアンケートを実施しており、計3回調査を行っている。グラフはその経過を示している。





アンケート結果より、本年度の3年生は2年生の3学期よりも若干ではあるが自己肯定感が向上してきているという傾向が見られる。受験を控え、不安やストレスを感じる機会の多い3年生であるが、学校行事ではリーダーシップを取る場面も多く、テーマに向けた具体的取り組みにより、3年生の自己肯定感が更に向上させたい。

1 1月中旬に、本年度第2回、2月末に本年度第3回のアンケート調査を実施する予定である。

1・2年生のアンケート結果については、第2回以降の調査後、考察を行う予定である。

(2) 「テーマ研修：実証授業」具体的実践例

ア 学活での実証授業

研修の内容である、「主体性な活動を通して、自己肯定感や集団への所属意識を持たせる特別活動や学級経営のあり方」「グループ活動を通じた、コミュニケーション能力を高めあえる具体的手法」という視点に立って、授業を作り上げた。授業研究では活発な意見交換をすることができた。この実証授業で見られた効果的な取り組みを全職員の日常実践につなげる働きかけを行う必要がある。

イ 道徳での実証授業

研修の内容である、「コミュニケーション活動を通し、生徒同士が互いの良さを認め合い、思いやりの心を育てる道徳教育の在り方」という視点に立って、授業を作り上げた。授業研究では活発な意見交換をすることができた。この実証授業で見られた効果的な取り組みを全職員の日常実践につなげる働きかけを行う必要がある。

(3) 校内のギャラリー化

生徒の図画や、硬筆、毛筆、その他の作品などを各学年の廊下に掲示し校内のギャラリー化を行う。これにより、生徒の自己肯定感の向上が期待される。また、校内ギャラリーは生徒会文化部によって管理運営することにし、係りの生徒の手による仕事で達成感も得られると思われる。更に、飾る作品を生徒に選ばせることにより、生徒同士互いを認め合う雰囲気作りも期待される。



(4) 生徒会一人一役の徹底

生徒一人一役の徹底により、学校生活における自己有用感を育てる。また、リーダーの育成や互いの長所を認め合える組織づくりをねらいとする。

ア 各専門委員会の常時活動と月別目標の精選

昨年度見直しを行った常時活動を、本年度の関係職員でもう一度見直しを進め、一人一役の内容の精選を行った。また、月別目標と具体策にまで踏み込み、生徒一人ひとりが最大限に活動できるような生徒会活動を目指した。

イ 常時活動の定期的な反省

常時活動の反省を相互に行うことにより、一人一役の徹底と、互いの常時活動を認め合い、高めあえるような機会をつくる。実施する回数を増やし、週に1回の頻度で行えるようにしていきたいと考えているが、現状では学年により、取り組みにばらつきがあるので、関係職員と確認し、全校一致で取り組める環境づくりに努めたい。

<常時活動反省用紙>

係活動振り返りシート

日付 () 月 () 日

() 部

| 氏名 | 仕事内容 | 評価(○をつける) | 反省 |
|-----------------------|------|--|--|
| 記入例 谷山 花子 (給食部) | ふきん係 | よくできた。 ○どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | 毎週忘れずに取り付くこと。 ほできたが、ふきん乗めぼ。 遅れてしまった。 |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |
| | | よくできた。 どちらかといえぼできた。 どちらかといえぼできなかった。 あまりできなかった。 | |

(5) 中間報告のまとめと今後の課題

生徒が自己有用感を得られる学校生活を送ることが最終的に生徒の主体性の育成につながると考えている。そのために、実証授業で取り組んだ手立てを各学級の学活・道徳で取り入れたり、各教科の授業で積極的にグループ活動や生徒が主体的に活動できる環境を日常的な実践として取り組んだりすることが求められる。授業研究の時だけの取り組みでは生徒の自己肯定感の向上は期待できない。全職員がもう一度研修テーマを確認し、毎時間の授業での取り組みを意識することが必要である。

また、生徒会活動を生徒にとってやりがいのあるものにするため、関係職員が研修テーマの視点に立った専門部会前の打ち合わせ会を常時行いたい。それにより生徒が主体的に運営する生徒会活動を進め、生徒一人ひとりの自己有用感や自己肯定感を高めていきたい。

健康に関する調査

この調査は、あなたが自分自身について考えていることや健康行動について調べ、これからの健康教育に役立てるものです。

あなたの答えた内容が他の人に知られることはありませんので、ありのままを教えてください。この調査は、テストではありません。

()年()組()番 氏名()

次のそれぞれの質問について、あてはまるものを一つだけ選んで、記号に○をつけてください。

1 私は、ほとんどの点で自分に満足しています。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

2 私は、自分がまったくだめだと思います。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

3 私は、自分にはいくつかよいところがあると思います。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

4 私は、ふつうの人と同じ程度には、いろいろなことができると思います。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

5 私には、あまり得意に思えることはありません。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

6 私は、自分が役に立たない人間だと思うことがあります。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

7 私は、ほかの人と同じくらい価値のある人間だと思います。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

8 私は、もう少し自分をほこりにできたらいいなと思います。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

9 私は、自分はよく失敗する人間だと思います。

ア よくそう思う イ ときにはそう思う ウ ほとんどそう思わない

10 私は、自分のよいところに目をむけるようにしています。

ア よくそうしている イ ときにはそうしている ウ ほとんどそうしていない

道徳学習指導案

| | | |
|-----|-----------------------|---------|
| 日 時 | 平成 23 年 10 月 31 日 (月) | 第 4 校時 |
| 場 所 | 谷 山 北 中 学 校 | 3 年 4 組 |
| 対 象 | 男子 17 名 女子 17 名 | 計 34 名 |
| 指導者 | 教 諭 | 石 塚 直 貴 |

1 主題名 遵法の精神と人間愛

2 資料名「困ってしまった王様」(明治図書・モラルジレンマ資料と授業展開より)

3 学習指導要領との関連

本主題は、4-(1)「法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める」ことをねらいとしている。

また、2-(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりのこころをもつ」ことをねらいとしている。

4 主題設定の理由

項目 4-(1)は、「法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める」ことをねらいとしている。全ての人々が人間として尊重され、よりよい生活を送るためには、社会的な秩序や規律が欠かせないものである。しかし、利己的な考え方のため、きまりや秩序を軽視しがちな傾向が見られるのも現実である。それが他の権利を侵害し、社会を乱すものであることを一人一人が認識し、集団の一員として、全体のことを考え、きまりを守ろうとする厳しい姿勢を持つことが必要である。

また、項目 2-(2)は「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりのこころをもつ」ことをねらいとしている。一人一人をかけがえのない存在として大切にし、互いにいたわりと思いやりの心をもって接することが、どんな人間関係においても望まれることである。そうした温かい人間愛の力は、大きな力を持ち、人に生きる力と心の潤いを与えるものである。

さらに、グループでの話し合い活動を設けることで、本年度の研究テーマである「確かな学力を育む教育活動はどうあればよいか」～コミュニケーション活動や助け合い活動を通して、生徒の主体性の育成を目指す～を実践したいと考える。

ある場面において、上記の価値は葛藤することがある。その心の揺れで悩むことにより、それぞれの価値の意味や大切さを充分にとらえ、人間としての生き方について考えを深めることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

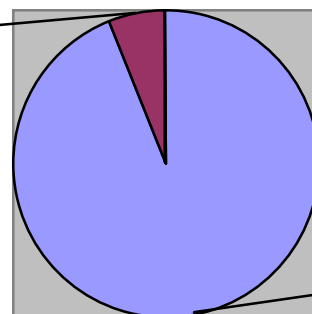
5 生徒の実態

(1) 意識調査アンケートの結果（平成 23 年 10 月 28 日実施 調査人数 33 人 欠席 1 名）

アンケートの内容

1 集団生活の中できまりは必要だと思いますか？

思わな
い
6%



思う
94%

2 そのように考えた理由を書いてください。

<必要だと思う> (31 名)

- ・ 集団生活が保てなくなるから。
- ・ 全員が楽しくするためには必要だと思うから。
- ・ 決まりがないと自分勝手な人が多くなり、何もかもがダメになってしまうから。
- ・ 決まりがあると窮屈だと言う人もいるが、決まりにはその決まりを決めなければならない理由があると思うので、必要だと思う。
- ・ 自分勝手な人は嫌いだから。

<必要だと思わない> (2 名)

- ・ 相手のことを考えて行動すれば、決まりがなくても考えられる。
- ・ あまり意味がないような気がする。

3 話し合い活動（グループ活動）は好きですか？

| | | |
|--------------|------|-------|
| ア 好き | 13 名 | (39%) |
| イ どちらかといえば好き | 17 名 | (52%) |
| ウ どちらかといえば嫌い | 3 名 | (9%) |
| エ 嫌い | 0 名 | (0%) |

4 そのように考えた理由を書いてください。

<好き> (13 名)

- ・ 話し合いで自分の意見を発表するのは楽しいから。
- ・ みんなの意見が聞けて、考えるのが楽しいから。
- ・ みんなと協力して、話せるから。全員が楽しくするためには必要だと思うから。
- ・ 自分の考えと対比するのが、おもしろい発見があったりするから。

<どちらかといえば好き> (17 名)

- ・ 生きていく上で、話し合いはとても必要だから。
- ・ お互いの思っていることをぶつけ合えるから。
- ・ グループ活動だったら班の意見があるけど、個人活動だったら意見を言うのが苦手だから。
- ・ 話し合ったりするのが、単に好きだから。

<どちらかといえば嫌い> (3 名)

- ・ あまり話し合いが好きではない。
- ・ 必要でも、やっぱりしぼられたくない。
- ・ 自分の意志と合わないときがあるから。

(2) 考察

本学級の生徒は全体的に明るく活発で、授業での発表や行事に対して、協力して意欲的に取り組んでいる。大きな行事も終わり、クラス全体で団結することの大切さを感じた生徒も多く

見られる。他を思いやる言葉や態度が多く見られる反面、利己的な言動をするものもいる。きまりは必要だと感じている生徒が多いが、きまりを守ろうとする意識には個人差が大きく、言い訳をしてルールを破ろうとするような甘さも見られる。

道徳の時間については、興味を持って資料を読んでおり、話し合い活動を好む生徒も多い。自分の意見を発言することや他の意見を聞くことに、関心が強い生徒が多く見られる。

そこで、モラルジレンマの授業を取り入れ、価値葛藤をしていく中で、友人の意見を聞き、それを受け入れ、自分の考えを深めていく過程を通して道徳的実践力を高めていきたいと考えている。

6 資料について

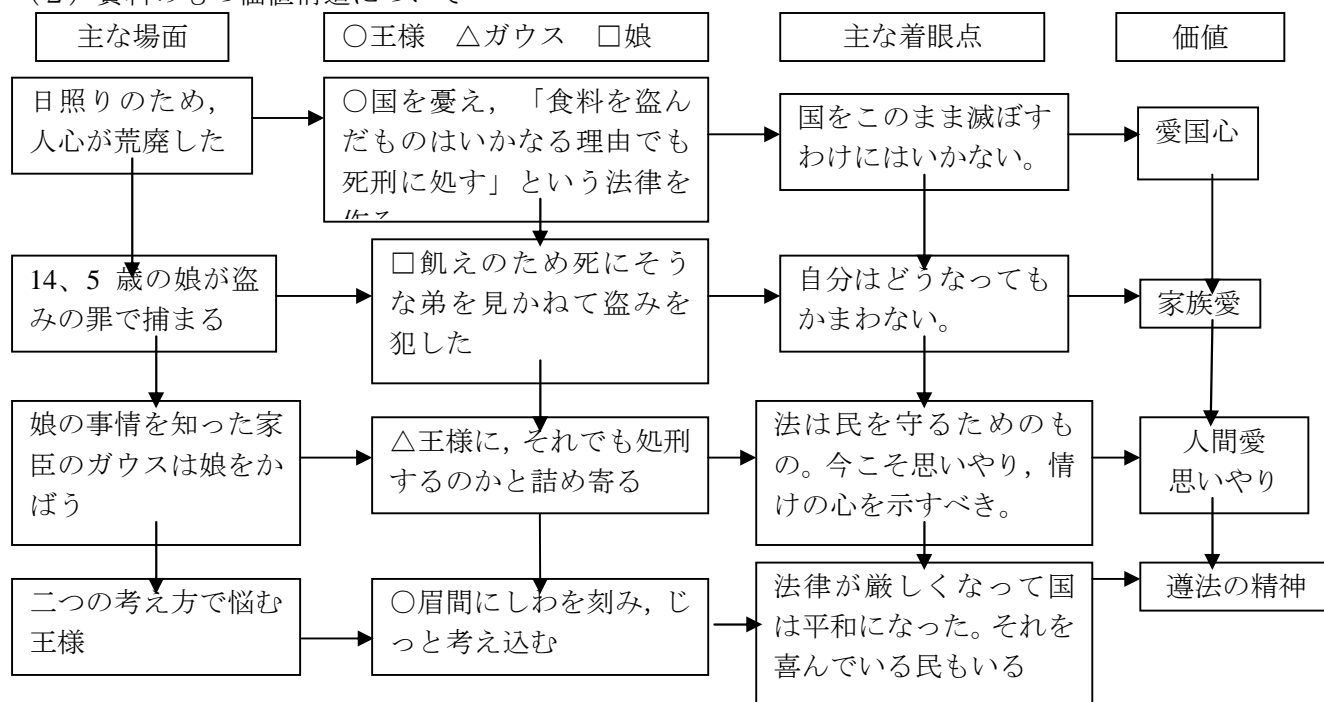
(1) 資料観

日照りのため田畑と共に人の心まで荒廃したことを憂えた王様が、法律を厳しくして国を治めようとした。それは功を奏し、国が平和になりつつあったとき、一人の少女が盗みの罪で捕まった。幼い弟のために、他に方法がなかったという哀れな少女である。この場合、王は法律に従って少女を処刑すべきか、処刑すべきでないか。

「法律によって秩序と平和が保たれており、法律に例外を作ったとき、法律は法律でなくなる」という立場。「弟のためやむにやまれず犯してしまった罪なのだから、思いやりの心、情けの心の尊さを示すべきだ」という立場。遵法じゆんぽうの精神と人間愛、どちらを尊重すべきか、深く考えられる資料であると考えられる。

生徒にとっては、状況が明快につかめるため、焦点を絞って考えやすいだろう。更に結論が出ていないため、理由付けを考えながら、生徒自身も揺れ動くと考えられる。そうした中で話し合い、より高い道徳的な考え方に触れることができるのではないかと期待される。

(2) 資料のもつ価値構造について



8 本時の実際

(1) 本時のねらい

法やきまりの意義を理解して遵守し、社会の秩序と規律を高めようとする意欲を養うとともに、他の人に対する思いやりの心、人間愛の精神を深める。

(2) 本時の学習過程

| 過程 | 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 | 時間及び形態 |
|----|---|---|---|--|
| 導入 | 1 きまりと聞いて思いつく言葉をあげる。 2 アンケート結果を紹介する。 | ① きまりとは何かを考えていきます。 ② 必要だと感じる生徒が多いことに気づかせる。 | ・あまり時間をかけないようにする。 ・スクリーンを用い、結果を提示する。 | 6分 一斉 |
| | 3 資料「困ってしまった王様」の前半を読む。 4 学習目標を確認する。 きまりについて考えよう。 5 王様が法律をつくった理由を考える。 | ③ 王様はこの後、どうしたのでしょうか？ ④ どうして王様は法律を作ったのでしょうか？ | ・資料の前半部分を配布する。 ・ワークシートを配布し、記入させる。 | 4分 一斉 5分 個人 |
| 展開 | 5 「困ってしまった王様」の後半を読む。 6 王様とガウス、どちらの意見を尊重したいかを考える。 7 個人の判断とその理由を発表し、グループとしての意見をまとめさせる。 8 代表者がグループの意見を発表する。 | ⑤ どちらの意見を尊重したいですか？理由も書いてください。 王様 ・国がまた荒れてしまう。 ・法律は守るために作ったものだから。 ガウス ・法律よりも命の方が大事だから。 ・命より大切なものはない。 | ・資料の後半部分を配布する。 ・ワークシートに自分の判断とその理由を記入させる。 ・司会者と記録者を決め、指示をする。 | 5分 一斉 5分 個人 9分 グループ |
| | 9 最終的な判断、意見、理由付けをワークシートに記入する。 | ⑥ 自分の意見をあらためて書いてください。 | ・意見が変わっても良いことを確認する。 | 4分 個人 |
| | 10 教師の話を聞き、本時の感想をワークシートに記入する。 | ⑦ 今日の授業で感じたこと、考えたことを書いてください。 | ・オープンエンド。結論を出さないように終わる。 | 7分 一斉 |
| | 終末 | | | |

(5) 評価

- ア 法やきまりの意義を理解し、遵守しようという意欲が持てたか。
イ 他を思いやること、人間愛の尊さを理解し、考えを深められたか。
ウ 自分の考えを明らかにし、話し合いによって深められたか。

第 3 学 年 特 別 活 動 指 導 案

日 時 平成 23 年 7 月 4 日 (月) 4 校時
場 所 谷山北中学校 3 年 2 組 教室
対 象 男子 17 名 女子 16 名 計 33 名
指 導 者 教 諭 加 藤 恵 子
教 諭 瀬 戸 口 浩 司

1 題材「肯定的に受けとめ、行動する」

2 学習指導要領との関連

内容 (2) -ア 思春期の不安や悩みとその解決

自分が不安に感じること、悩みとその解決方法、身近な人の青年時代などの題材を設定し、生徒が自由に話し合ったり、先輩や身近な大人にインタビューして発表したり話し合ったりするなど様々な方法が考えられる。

3 題材設定の理由

(1) 教材観

中学生の時期は、自我の目覚めとともに、独立の欲求が高まり、自己内省をし始める時期である。その一方、自我の発達はまだ未熟な面もあり、自分に対する他者の態度や評価で動揺しやすく、自信を失ったり自己嫌悪に陥ったりすることも少なくない。学年による特徴を見ると、中学校入学時には多様な集団への所属に伴う人間関係の変化や、部活動などにおける先輩・後輩関係など、人間関係の複雑化に起因する悩みを抱えることが多い。学年が進行するとともに、新たな不安や悩みが加わることになり、異性への関心も高まる。また、感情の起伏も激しくなる。さらに、高校進学などが意識される頃になると、学習上の悩みや進路選択に関する不安や悩みが大きくなっていく。こうした、様々な不安や悩み、また、自分の目標が達成できないことから、生徒の中には無気力傾向などに陥ったり、非行に走ったりする者も見られる。

(2) 生徒観

本学級の生徒の実態として、1小1中という特殊な環境から小学校時代から起因する人間関係の悩みを抱える生徒や、部活動を通しての後輩との関わりに問題を抱える生徒が多い。物事を否定的に捉え、その感情を抱えたまま、その後の行動も消極的になったり、自暴自棄になったりするケースが見られる。また、高校進学をひかえ、学習に対する悩みや不安を抱え、自分に自信がなく、消極的な発言や行動をする傾向にある。

(3) 指導観

自分たちの行動は、物事に対する自分自身の感情・考え方に影響されることを知り、自分の周りで起こる様々な物事をどうしたら肯定的に受け止めることができるか探る活動が必要となってくる。身近な例を取り上げて、グループでの話し合い活動や教師の意見を通して、肯定的に物事に臨む姿勢を考えさせたい。また、仲間との意見の違いから新しい物事の捉え方を身につける機会とさせたい。これらの理由からこの題材を設定した。

(4) 校内研修のテーマの視点から

本校の研修のテーマは次に示すテーマである。

「確かな学力を育む教育活動はどうあればよいか」
～コミュニケーション活動や助け合い活動を通して、生徒の主体性の育成を目指す～

このテーマに基づき、本授業ではコミュニケーション活動を通して、生徒が自信や自己肯定感を身につけることにより、生徒の主体性を育成することがねらいと

なる。

全校生徒の傾向として、学年が上がるにつれて受け身の姿勢が強まり、発表したり積極的に活動したりする生徒も固定化し、集団への所属意識が低下するように感じる。また、本校は1小1中という環境から、小学校での人間関係が根強く残っており、自分の意見や考えを持っているにも関わらず、周囲を気にし、人と違う意見を発表することができず、他人の意見に追従してしまう傾向がある。しかし、少人数での活動では積極的に自分の意見を発表したり質問したりするので、学級の活動や授業の中で自分の意見を述べる経験を積むことで、自信や自己肯定感をもって活動できる生徒になると考えられる。また、その際に発表した意見を肯定されるような雰囲気の中で授業を進めていきたい。

4 指導目標

困難な状況に出会った時、どうすればそれを肯定的に受け止め、どのように対応すればよいのかを考える。

5 指導計画

| 第3学年 特別活動 指導計画案 (18時間/35時間) | | |
|---------------------------------------|---------|---|
| 個人及び社会の一員としての在り方、学業生活の充実及び健康や安全に関すること | | |
| 題材 | 時間 | 学習活動内容 |
| 1年間の見通しを持つ | 1 | 年度初めに際し、卒業までの学校生活の見通しを立てる。 |
| 充実した学校生活を送ろう | 1 | 学級目標や個人目標を掲げる。 学級組織を作り上げる。 |
| 生き方について考えよう | 1 | 働くことの意義や、働いて生きることの意味について考える。 |
| 性感染症について考える | 1 | 性感染症についての知識や予防について考える。 |
| 肯定的に受け止め、行動することを考える。 | 1 本時 | 悩みや不安と上手に向きあい、物事に対して肯定的に受け止め行動することを考える。 |
| 長期休業を生かそう | 1 | 進路希望を実現できる休みになるように、長期休業中の生活計画を立てる。 |
| 思い出に残る行事にしよう | 1 | 体育大会の係り決定と、大会へ向けてのクラスの目標を立てる。 |
| 地域や社会に生きる一員としての在り方を考えよう | 1 | 地域の人々と交流を深め、地域社会に貢献するにはどうすればよいかを考える。 |
| 進路選択へ向けて | 1 | 進路選択の手順を確認し、さまざまな角度から進路を選択することを学ぶ。 |
| 自分にあった進路先を選ぼう | 1 | 様々な進路情報を元に、よりよい決定が出来るように考える。 |
| これからの男女交際 | 1 | 色々な意見から男女交際に関して、望ましい考え方を身につける。 |
| 社会の一員として生きる | 1 | 社会の一員として、貢献できることはないか考える。 |
| 冬休みの生活設計と過ごし方 | 1 | 受験を控えた冬休みの有意義な過ごし方を考える。 |
| 血液教室 | 1 | |
| 自分を信じて | 1 | 3年間を振り返り、卒業後の自分の生き方を考える。 |
| 感謝の気持ちを表そう | 1 | 義務教育を終えるにあたり、今までお世話になった人たちへの感謝の気持ちを伝える手段を考える。 |
| 夢に向かって羽ばたこう | 1 | 卒業式を迎え、中学校生活を振り返り、自分と仲間の新しい旅立ちを励ましあう。 |

6 本時の実際

(1) 主題 「肯定的に受け止め，行動する」

(2) 目標

ア 感情と考え方の違いを確認する。

イ 考え方を前向きにすることができる。

ウ 困難な状況では，否定的に考えがちだが，肯定的に考えれば，より上手に対処することができることを知る。

(3) 実際

| | 学習内容 | 時間 | 形態 | T ₁ の留意点 | T ₂ の留意点 |
|----|--|-----------|----|--|---|
| 導入 | 1 ミニレクリエーション心の天気～ウェザーレポート～を行う。 | 5 | 班 | ・16～7人ずつの2グループに分けて，T ₁ ・T ₂ がそれぞれのグループに加わる。 | |
| | 2 本時の目標を確認する。 困った状況に出会った時，どうすればそれを肯定的に受け止め，行動できるか考えよう。 | 2 | 一斉 | ・ヘリー・フォードの言葉を紹介して，本時の目標を確認させる。 | |
| | 3 教師による寸劇(困った状況に出会ったときの思考と行動)を見る。 | 2 | 一斉 | ・事前のアンケートを元に，生徒に多く見られた思考と行動を寸劇で取り上げる。 | |
| 展開 | 4 感情から行動するに至るまでの過程について知る。 | 4 | 一斉 | ・具体的な事例をもとに，感情から行動に至るまでの過程をカードを用いて説明する。 | |
| | 5 前向きな考え方への転換法を知る。 | 2 | 一斉 | ・T ₁ とT ₂ で寸劇を行う。具体的な事例を元に，前向きな考え方への転換法を寸劇で提示する。 | |
| | 6 与えられた状況カードからどのような前向きな考え方が出来るのか，前向きに転換する練習をする。 (1) 班をつくる。 (2) 班ごとに役割分担を決める。 | 20 (1) | 班 | ・反応は変えられないが，考え方を変えると感情が変わり，行動が変わることを説明する。 ・前向きな方法と後ろ向きな方法とどちらがいいか考えさせる。 ・役割の説明をする。 | ・班ごとに模造紙とマーカーとタイマーと状況カードを準備しておく。 ・提示装置で役割の仕事内容を提示しておく。 |

| | | | | | |
|-----|---|-----------------|--|--|---|
| | ア 司会 イ 記録者 ウ 報告者 エ タイムキーパー オ 道具係 | (3) (10) | 班 | <ul style="list-style-type: none"> ・前向きな考え方を挙げさせ、具体的に練習方法を提示する。 ・模造紙の記入例を教材提示装置で提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・状況カードは1班1枚配布する。 ・状況カードは3パターン用意し、2班ごとの意見を比べられるようにする。 |
| | <p>(3)状況カードの状況に対し、どのような感情が起こるか書き、その後、後ろ向き／前向きな考え方、後ろ向き／前向きな行動を考え、模造紙にまとめる。</p> <p>(4)模造紙の内容を発表者が発表する。</p> | (6) | | <ul style="list-style-type: none"> ・T₁・T₂ともに、机間巡視を行い、話し合い活動が活発になるように働きかける。 ・前向きな意見には、賞賛するなど更に意見が活性化するように働ける。 ・発表者の発表の仕方や聞く態度をしっかりと見届ける。 ・教材提示装置に、発表者が話し合った状況を提示しておく。 | |
| | | | 6 学習を振り返る。 | 5 | 一 斉 個 人 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を全体が共有できるような雰囲気をつくる。 | | |
| まとめ | 7 教師の説話を聞く。 T ₁ とT ₂ の体験談を聞き、実際に肯定的に受け止めて、成功した例を知る。 | 10 | 一 斉 | <ul style="list-style-type: none"> ・前向きに考え、行動することを練習していけば、困難な状況に対しても、より上手に対処できるようになることを伝える。 ・状況によっては、どんなに肯定的に受け止めようと思っても、難しいときがあり、その時には周りの人に相談したり、話したりして解決するようにすることを伝える。 | |

(4) 評価

ア 感情と考え方の違いを確認できたか。

イ 考え方を前向きにすることができたか。

ウ 困難な状況では、否定的に考えがちだが、肯定的に考えれば、より上手に対処することができることを知れたか。

